

消費者との意見交換会の概要

1. 日 時：平成21年11月26日（木） 13：30～15：00

2. 場 所：山梨市勤労者福祉センター（夢わーく山梨）
（山梨市上神内川1348）

3. 出席者：山梨市の食育ボランティア 6名

4. 内 容：【講演】

「食の安全・安心に関する基礎知識」

山梨農政事務所 消費生活課長 長谷川 洋

【情報交換・意見交換会】

5. 意見交換等の概要

参加者 : トレーサビリティとは、生産者がどのように生産したかが分かるシステムなのではないでしょうか。

長谷川課長 : トレーサビリティとは、どのようなものかと言いますと、生産者、加工業者、卸業者、小売業者といった食品流通の各段階で入出荷を記録しておくということです。

トレーサビリティは、農薬の使用回数を定めるといった性格のものではないため、イコール「安全」ということではありません。

生産・流通、それぞれの段階で品物の入出荷を記録することによって、何か問題があった時に、その原因がどこにあるのかを速やかに突き止めることができることで、消費者だけでなく、食品事業者の被害を最小限に抑えることができる。というシステムです。

生産者がどのように生産したかが分かるというものは、トレーサビリティではなく、どちらかという、「GAP」という取組だと思えます。「農業生産工程の管理手法」と言いついて、生産者が例えば、どんな農薬をどの時期に使用したなどについて点検・記録を行う取組で、農産物の安全性確保の観点から、農林水産省としてもこれを推進しているところです。

また、来年度から実施される「米トレーサビリティ制度」については、これまでお話ししたとおり、原材料米穀の入出荷を記録することによって、主食用とそれ以外の用途のお米が流通過程で混同するといった不正規流通を防止することを目的としています。

参加者 : トレーサビリティ制度のことは良く分かりましたが、そういった情報を商品へ表示してもらえると、安心して買い物もできると思うのですが、いかがでしょうか。

- 長谷川課長 : 確かに、そのお気持ちは十分分かります。
しかし、食品の生産・流通から食卓に届くまでの過程では、数多くの卸や加工業者などが関わっているため、その全ての工程を表示することは不可能だと思います。なお、企業によってはホームページなどで、どのような原材料を使用しているかが確認できるような取組も行われています。
- 参加者 : スーパーでホットケーキミックスを買った時のことです。袋の表示を見ると、小麦粉と書いてありますが、その小麦粉が国産なのかどうか、メーカーのお客様センターへ問い合わせなければ分からないということがあったので、全ての工程を表示してあれば良いと思いました。
- 長谷川課長 : 今のご質問は「トレーサビリティ」というよりは、「食品表示」に関するものだと思いますが、農林水産省では、定期的に食品表示の在り方に関する検討会などを開催し、このような消費者の皆さんのご意見を踏まえつつ、見直しを行ってきているところであります。
- 司会者 : 食の安心・安全に関しては、今、とても注目されています。
こういう時にこそ、的確な内容の話を、分かりやすくご説明いただきありがとうございます。

参加者の感想 :

- ・食の安全・安心、信頼などについて分かりやすい説明でした。
- ・このようなセミナーがあれば、また参加したいです。
- ・今まで仕事をしていたので、どうしても出来合の物で食事を済ませていましたが、これからは普段から食べ物・食育のことにも気を付けたい。
- ・普通の食べている食べ物の中でも確実に「安全なもの」はないが分かった。
- ・トレーサビリティ制度について、分かりやすかった。
- ・消費者が安心・安全な食生活が送れるよう、これまで以上に努力していただきたい。